

【令和3年度第3回北杜市八ヶ岳スケートセンター管理運営委員会 議事録】

日 時：令和3年11月26日（金） 午後2時00分～3時10分

場 所：須玉ふれあい館 会議室1

出席者：管理運営委員会委員13名

欠席者：1名

事務局：加藤教育部長、渡辺生涯学習課長、社会体育担当 浅川

傍聴人：2名

## 1. 開会

## 2. 委員長あいさつ

### ・協議事項

#### (1) 八ヶ岳スケートセンターの運営について

#### (2) 夏場の活用について

事務局より、第2回管理運営員会の視察の概要、今後の八ヶ岳スケートセンターの活用方法について説明。

#### (事務局)

事務局案としては、リンク内側をスケートボード、ローラースケート、フットサル等様々な用途で活用できるよう、アスファルト又はコンクリート舗装による整備を行っていきたいと考えている。リンク内側の約半分を占める調整池については、これまでどおりの機能を保持すべきか事務局で調査した上で検討する。調査結果によっては、リンク内側を全て平らにすることが可能かどうかも検討課題となる。このことについて、今後どのような活用方法が期待できるかも含め、委員の皆様の見解を伺いたい。

#### (会長)

夏季の活用方法を考えると、他の箇所に新規で建設するよりも、リンク内側を改修し、活用するのが最善かと思う。今後のスケジュールとしては、来年度の冬季にスケートリンクの営業を開始し、夏季の営業は再来年を目途にしている。事務局からの説明、提案を踏まえてどのように考えるか。

#### (委員)

前回の視察に参加したが、軽井沢風越公園スケートリンクは八ヶ岳スケートセンターと同じ構造のリンクであったため、大変参考になった。きちんと整備をすれば、八ヶ岳スケートセンターも自由に広く使用できるスペースが確保できる可能性がある。また、インコーナーに水を溜めるための升があり、八ヶ岳スケートセンターの調整池と同様の機能を持っている。広く平らなスペースと水を溜める機能を両立させている点も、リンク内側の整備をする上で参考になるのではないかと。

(会長)

視察は非常に勉強になった。視察の際に得た情報も踏まえて、事務局の提案について他に意見があるか。

(委員)

リンク内側を平らに整備すれば様々な利用方法を検討でき、可能性が広がる。金銭面の問題や調整池の安全面にも考慮しつつ、ニーズや流行りのものを参考にする必要があると思う。

(委員)

リンク内側を整備することで、軽井沢風越公園スケートリンクの自主事業として行っている「遊び放題」のように、小さい子供が遊べる場など活用の範囲が広がる。いずれの場合も、1人で来場してもらう形ではなく、親子で一緒にふれあえるような場所を作ってほしい。

(委員)

スポーツマネジメントの視点から考えると、スケート競技のレベル向上は重要であるが、一般の利用者や県外の観光客をいかに集め活用するかが第一優先だと考える。集客数が上がることで、施設の存続や地域の活性化につながり、結果的に地元のスケート競技者のためになるのではないかと。小淵沢町は観光資源に恵まれた場所であり、八ヶ岳スケートセンターのリンク内側を活用することで、年間を通して観光客を呼び込むことができれば理想的である。なお、整備の際にコンクリート舗装をした場合、地盤の老朽化が起きやすく難しい部分があると聞いている。整備方法についても考慮しながら、リンク内側を活用する方向で進めてほしい。

(会長)

ここまでの意見を踏まえ、リンク内側を整備し活用する方向でまとまっているが、事務局案のとおり計画を進めても良いか。

→異議なし。

(事務局)

いただいた意見をまとめ、どのような形で整備するか、地盤調査など必要な調査をしっかりと行った上で進めていきたい。

(会長)

この件について、他に意見があるか。

(委員)

これまで積雪時やリンク整備により削れた氷を、リンク内側に置いていた。今後リンク内側をコンクリート舗装にした場合、雪や集めた氷の重さに耐えられるのか心配な点である。材質、強度等を専門業者と綿密に協議していただきたい。

(会長)

雪が溶けたときの排水方法も考慮する必要がある。その点も詳細を検討して、無理の出ないように計画してほしい。

(委員)

軽井沢風越公園スケートリンクの地盤はコンクリート舗装か。

(事務局)

地盤はコンクリート舗装であり、一部その上に人工芝のマットが敷かれている。

(委員)

リンク内側を競技スポーツで利用するのであれば地面が固いとケガの恐れがある。例えば、スポーツ仕様のクッション性のある材質など、舗装の材質も考慮した方がよい。

(会長)

活用方法により、地盤・舗装の材質も検討しながら進めてほしい。

(事務局)

市としては、来年度の整備に向けて、予算化しながら検討していくことになるが、リンク内側の活用方法によって実施の方向性が変わってくる。

委員の皆様のような立場で、アイデアがあれば事業計画の参考にしたい。

(会長)

事務局から話があったとおり、集客の方法によって方向性も大きく変わる。各専門分野から見て何か知恵をいただければと思う。

(委員)

国内には室内スケートリンクが3つあるが、そのうち八戸、帯広のスケートリンクはリンク内側をテニスコート、フットサルコートとして活用している。どちらのリンクも地盤はコンクリートであり、その上に人工芝を敷いている。このように、コンクリート舗装の上に更に人工芝や床を整備し、スポーツを行っている事例もある。

(委員)

八ヶ岳スケートセンターは屋外リンクであるため、自然の影響を受けやすい。また、フットサルやサッカーの利用者は、市内の「長坂総合スポーツ公園陸上競技場」を利用しており、今回リンク内側を人工芝に改修しても、より小規模な施設への集客は難しい。個人的には、競技スポーツに特化するのではなく、観光客をターゲットとする方が良いと考える。小淵沢町は家族連れの観光客も多く、子供を遊ばせる場を求めることは重要な視点であり、観光客の受け皿となるような施設を整備すれば、先に繋がるのではないか。加えて、現在市営バスが小淵沢駅から道の駅こぶちざわまで通っているため、その延長に八ヶ岳スケートセンターを加えれば、より人の流れを作ることができる。

(会長)

スポーツに特化した考えに偏ってしまいがちだが、観光的な視点からの意見も取り入れてもらえればと思う。

(事務局)

事務局としても、一つの目的に特化した施設を整備するのではなく、時代の変化や様々なニーズに合わせられる整備が必要だと考えている。先程観光地としての意見があったが、本委員会とは別に、八ヶ岳スケートセンター周辺地域の活性化を目的とした「八ヶ岳スケートセンター周辺地域活性化協議会」を併せて設置している。兼任している委員より状況を説明してほしい。

(委員)

「八ヶ岳スケートセンター周辺地域活性化協議会」では、10月15日に一回目の会議を開催し、観光の現状を共有した。小淵沢町には数多くの宿泊施設や観光施設があり、北杜市を訪れる観光客の約3割が小淵沢町を訪れており、リゾート観光地としての認知度は高い地域である。中でも、アウトレットやスパティオ小淵沢（道の駅こぶちざわ）が集客数を伸ばしており、小淵沢観光の中核施設と言える。最近の傾向としては、観光客数のうち約6割が女性、家族連

れを含め2～3人のグループで訪れることが多い。また、ほとんどが関東方面からの観光客であり、交通手段は自家用車での移動、1日から1泊2日の短期滞在が主である。協議会では、今後ワーキンググループを作成しながら、来年度の秋ごろを目途に具体的な活性化策の構想を検討する予定である。

(会長)

今後に向けて「八ヶ岳スケートセンター周辺地域活性化協議会」とも連携を取りながら協議していきたい。夏季の営業開始まで時間が限られているため、検討及び整備の着工を早急に進めていただきたい。

(事務局)

今年度県外に練習に行かなければならないスケートクラブやスケート部の子どもたちのためにも、来年11月には必ず滑れるような状況を整備したい。スケートの振興、スケート文化の継続を一番の目的としながらも、夏季の活用方法も踏まえてしっかりと準備を進めていきたい。

(会長)

全体を通して何か意見があるか。

(委員)

高校生は競技中心になるため、春から夏にかけてのトレーニングも重要であり、現在は学校周辺で場所を工夫しながら練習している状況である。今後スケートセンターのリンクの内側を利用することができれば、選手の練習環境が良くなると思う。

(委員)

休日は県外ナンバーの車も多く、観光客も多く訪れていることを実感している。小淵沢町の観光資源を活用しながら、スケートセンターに集客できれば、施設の利用価値が上がる。ぜひ、観光客が利用できる方向で検討してもらいたい。

(委員)

様々なアイデアが出たが、一つのものに特化するとブームが過ぎると利用者が減る恐れがあるため、変更可能なものを検討することが重要。また、スケートセンターの景観についても考慮してほしい。リンク西側のアカマツを少し伐採するだけでも、利用者が展望を楽しむことができる。

### 3. その他

(会長)

第1回管理運営員会時に、委員から現在県によって行われているスケートセンターの改修について2点質問が出たが、その回答をお願いしたい。

(委員)

1点目のスケートセンターの耐震調査について、スケートセンターの管理棟、倉庫、車庫、記録棟は、耐震調査基準に達していないため、調査対象ではない。通常の維持管理をしていけば耐震可能な施設だと判断している。次に、2点目の修繕によって設備の効率がどれくらい保たれるかについては、メーカーでも具体的なデータが出ていない。今回の県の修繕では問題のあった冷凍設備を中心に修繕を行っており、稼働状況は十分改善できると考えている。

(会長)

管理棟の雨漏りの関係でも質問したが、確認をしたころ、管理棟の南面の雨どいに枯葉等が溜まり水があふれていたことが原因であった。既に修繕済みであるとのことで、再度修繕の必要はないとのことだった。

また、冷凍設備が古く修繕をした後も短期間しか持たないとも聞いているがどうなのか。心臓部の冷凍設備が作動しても、その血管部であるパイプ等は問題なく使用できるのか再確認したい。

(委員)

県では6月の補正予算で予算決定し、8月以降工事に着工している。1番長く期間のかかるものは冷凍設備の整備・更新であり、来年3月までを予定している。また、現在リンク表面や外壁の補修も行っている。随時現場の状況を確認しているが、現時点で大きな問題はなく、計画通り工事が進んでいる。市の要望を反映しながら重要な箇所を優先的に修繕しており、譲渡後も安定的な運営が可能な状態を目指しているため、御理解いただきたい

(会長)

今後市と県で連絡調整を取りながら修繕を進めてもらいたい。

### 4. 閉会